

演題番号 高校生剣道部員におけるストレス対処力(SOC)の関連要因

事務局記入) ○浅沼 ^{あさぬま} 徹^{とおる} ¹⁾、武田 文¹⁾、朴峠 周子²⁾、門間 貴史³⁾、

藤原 愛子¹⁾、木田 春代¹⁾、香田 泰子¹⁾

1) 筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻、2) 人間総合科学大学人間科学部人間科学科、3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻

【背景】近年、ストレス対処力を表す首尾一貫感覚(Sense of coherence : SOC)が注目されている。SOC の形成にはさまざまな人生経験や心理社会的要因が関連するとされているが、これまでSOC と運動・スポーツとの関連についての実証的検討は少なく、また武道に着目した研究は僅少である。

【目的】高校生剣道部員のストレス対処力(SOC)の状況を明らかにするとともに、SOC と剣道の開始年齢、段位、心理社会的要因との関連を明らかにする。

【方法】2011年8月に、千葉県A市で開催された練習試合に参加した、関東地方の高校32校の剣道部員400名を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。調査項目は、1)属性(性別・学年)、2)開始年齢、3)段位、4)SOC、5)心理社会的要因(ソーシャルスキル、ソーシャルサポート、相互協調的自己観)とした。回答が完全であった307名(有効回答率76.8%)を分析対象として、SOC得点と開始年齢、段位、心理社会的要因の各得点との関連を検討した。その際、開始年齢は中央値により10歳以下と11歳以上で、段位は初段以下と式段以上でそれぞれ2群化した。単変量解析において有意な関連のみられた変数を独立変数、SOC得点を従属変数とする重回帰分析を行った。本研究は、筑波大学人間総合科学研究科研究倫理委員会の承認を得て実施された。

【結果】本対象のSOC得点は 50.8 ± 8.8 、ソーシャルスキル得点は 56.8 ± 8.8 、ソーシャルサポート得点は 44.5 ± 7.7 、相互協調的自己観得点は 49.3 ± 7.5 であった。

重回帰分析の結果、ソーシャルスキル得点($\beta = .278, p < .001$)およびソーシャルサポート得点($\beta = .244, p < .001$)が高く、相互協調的自己観得点($\beta = -.244, p < .001$)が低いほど、SOC得点が高かった。

【考察】本対象のストレス対処力レベルは、先行研究における一般の高校生と同等であった。先行研究によれば、競技レベルの高い大学生柔道・剣道部員のSOCレベルは一般の大学生より高いことが報告されているが、これらの集団では、より幼少期から武道経験を蓄積しており、また全日本選手権や国際大会での入賞といった質の高い成功経験を有している。SOCの形成には、特に成功経験が関与するとされており、本対象ではそうした経験を十分に蓄積していないことが、一般の高校生のSOCレベルと相違がなかった理由の一つではないかと考えられる。

また、対人関係を円滑に進める自信が強いこと、周囲からのサポートが良好であること、および周りからの評価を懸念する傾向や対人依存傾向が弱いことが、ストレス対処力の高さに関連していることが示唆された。これらは、SOCの理論を支持する結果であった。

【結論】高校生剣道部員におけるストレス対処力(SOC)レベルは、一般の高校生と同等である可能性が示唆された。またストレス対処力(SOC)は、ソーシャルスキル、ソーシャルサポート、相互協調的自己観とそれぞれ単独に関連していた。

E-mail ; tohru_asnm@yahoo.co.jp